

2015. 9. 29

プレスリリース

「内外の化繊工業の動向」

2015年 第2四半期

平素より格別のお引き立てをいただき厚く御礼申し上げます。
このたび、当会では、標記の報告書をまとめましたので、その「概要」をお届けします。
ご高覧下さいますよう、よろしくお願い申し上げます。

日本化学繊維協会

(お問合せ先 業務調査グループ TEL 03-3241-2313)

概 要 (2015年第2四半期)

2015年4-6月のわが国の景気は企業業績が堅調だったものの、個人消費および輸出が伸び悩み、緩やかに続いていた景気回復が一服した。

このような中、化繊景況は紙おむつなどの衛材用やフェイスマスクなどの生活資材用が堅調だったが、婦人服をはじめとした国内向け衣料用や自動車用が低調なため、化繊生産は24.3万ト、前年比3.9%の減となった。

国 内

- 1) 衣料用途は、国内向けは不振が続き、輸出ビジネスも米国向けを除き減速した。ユニフォーム・ワーキング用は備蓄の一巡で荷もたれ感が台頭したが、パンストはプレーンタイプが健闘し、インバウンドの爆買の対象になった。保温肌着用は厚地がトレンドになり、アクリルSの出荷量が増加。ブラックフォーマルは主力の百貨店向けが横這いだったが、ロードサイドショップ向けは健闘した。インテリア用途は、昨年初の駆け込み需要の反動減が続き、カーテンおよびカーペット用が苦戦した。衛材・生活資材用途は、紙おむつなどの衛材用が製品輸出の増加を背景に堅調に推移し、中国で需要拡大が続くフェイスマスク用も好調であった。産業資材用途は、エアバッグ用は堅調だったが、タイヤコード用は織物および強力糸の高水準の輸入が続き、ポリエステル製では海外調達品が大半を占めた。カーシート用は自動車生産の前年比減が続いたことや一部で合成皮革へのシフトもあり苦戦した。土木・建築用も公共工事の一巡や防音対策の工法変更などで予想を下回った。
- 2) 生産指数は、繊維工業全体で前年比（以下同じ）2.2%減、化繊3.0%減、紡績10.9%減。在庫指数（期末）は、繊維工業全体が3.4%増、化繊5.5%増、紡績14.5%減。（2010年=100、生産、在庫とも指数ベースでの比較）
- 3) 繊維品輸出は、ドルベースで20.8億ドル・前年比（以下同じ）9.8%減、一方円ベースでは2,523.2億円・7.2%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料4.1億ドル・5.8%減、糸類2.7億ドル・11.5%減、織物類6.6億ドル・7.9%減、二次製品他7.4億ドル・12.9%減。仕向地別（ドルベース）では、全体の44.7%を占める中国が13.0%減の6.6億ドル、香港（12.1%減）、韓国（7.2%減）、台湾（19.0%減）、アセアン地域は、ベトナム（8.3%減）、タイ（10.6%減）、インドネシア（12.9%減）・マレーシア（8.5%減）となり、それ以外では米州（4.7%増）、西アジア（3.6%減）、欧州（12.3%減）。
- 4) 繊維品輸入は、ドルベースで79.5億ドル・前年比（以下同じ）12.5%減、一方円ベースでは9,643.5億円・3.8%増。形態別（ドルベース）では、繊維原料1.5億ドル・16.6%減、糸類3.1億ドル・12.7%減、織物3.65億ドル・9.4%減、二次製品他71.2億ドル・12.6%減。仕出地別（ドルベース）では、全体の69.2%を占める中国が16.4%減の50.1億ドル、

韓国（18.4%減）、台湾（7.9%減）、アセアン地域は、ベトナム（0.5%増）、インドネシア（5.5%減）、タイ（4.2%減）、マレーシア（1.7%減）、それ以外では、イタリア（11.4%減）、米国（10.7%減）。

繊維品輸出・輸入実績

項目	単位	2013.4-6	2014.4-6	2015.4-6	2014年比(%)	2013年比(%)
輸出	千ドル	2,296,564	2,305,209	2,079,432	-9.8	-9.5
計	百万円	226,678	235,429	252,321	7.2	11.3
繊維原料	千ドル	421,072	436,531	411,379	-5.8	-2.3
糸類	〃	297,261	300,693	266,154	-11.5	-10.5
織物類	〃	766,794	719,714	662,800	-7.9	-13.6
二次製品他	〃	811,438	848,272	739,099	-12.9	-8.9
輸入	千ドル	9,649,501	9,094,520	7,954,422	-12.5	-17.6
計	百万円	952,351	929,122	964,354	3.8	1.3
繊維原料	千ドル	187,955	181,200	151,150	-16.6	-19.6
糸類	〃	343,630	359,508	313,782	-12.7	-8.7
織物類	〃	385,164	402,529	364,516	-9.4	-5.4
二次製品他	〃	8,732,752	8,151,283	7,124,974	-12.6	-18.4
(うち衣類)	〃	(7,325,463)	(6,671,831)	(5,827,892)	-12.6	-20.4
輸出レート	円/ドル	98.7	102.1	121.3	18.8	22.9
輸入レート	円/ドル	98.7	102.2	121.2	18.7	22.8

(出所) 財務省

5) 化繊生産は24万3,303トン・前年比(以下同じ)3.9%減となり、うちセルロース繊維4万180トン・9.6%減、合繊20万3,123トン・2.7%減となった。期末(6月末)在庫は9万2,611トン・3.5%増、うちセルロース繊維1万5,808トン・7.0%減、合繊7万6,803トン・5.9%増であった。

化繊輸出(繊維原料～二次製品)は16.7万トン・前年比(以下同じ)1.8%増。うち、繊維原料8.5万トン・4.5%増、糸類2.9万トン・1.7%減、織物類(面積ベース)1.68億㎡・1.3%増、二次製品2.6万トン・1.6%減となった。品種別では、レーヨンS45.4%増、ナイロンF4.7%減、ポリエステルF13.0%減、ポリエステルS16.2%減、アクリルS19.3%増、織物類(面積ベース)はナイロンF織物2.2%増、ポリエステルF織物1.3%減、ポリエステルS織物0.2%減であった。

化繊輸入(繊維原料～二次製品)は32.4万トン・前年比5.5%減。うち、繊維原料1.5万トン・8.2%減、糸類6.0万トン・7.0%増、織物類(面積ベース)は1.67億㎡・1.7%増、二次製品22.2万トン・6.8%減、うち衣類9.6万トン・10.0%減となった。品種別では、レーヨンS38.6%減、ナイロンF4.3%増、ポリエステルF0.2%減、ポリエステルS1.9%増、ポリエステル紡績糸1.9%減、織物類(面積ベース)はポリエステルF織物8.0%増、ポリエステルS織物7.9%増であった。

化学繊維の主要指標

項 目	単位	2013. 4-6	2014. 4-6	2015. 4-6	2014年比(%)	2013年比(%)
化繊生産	千トン	251.1	253.3	243.3	-3.9	-3.1
セルロース	〃	38.5	44.4	40.2	-9.6	4.4
合 繊	〃	212.6	208.8	203.1	-2.7	-4.5
化繊在庫	〃	89.2	89.5	92.6	3.5	3.9
セルロース	〃	15.5	17.0	15.8	-7.0	2.2
合 繊	〃	73.7	72.5	76.8	5.9	4.2
化繊輸出	千トン	162.7	164.1	167.1	1.8	2.7
	100万ドル	1,455.3	1,447.9	1,339.9	-7.5	-7.9
	億円	1,436.6	1,478.7	1,625.5	9.9	13.1
繊維原料	千トン	81.7	80.9	84.5	4.5	3.5
糸 類	〃	29.1	29.8	29.3	-1.7	0.8
織物類	百万㎡	170.4	166.0	168.1	1.3	-1.3
二次製品	千トン	25.2	26.8	26.3	-1.6	4.5
化繊輸入	千トン	318.2	342.6	323.8	-5.5	1.8
	100万ドル	3,993.9	3,908.3	3,363.4	-13.9	-15.8
	億円	3,941.7	3,992.7	4,078.5	2.1	3.5
繊維原料	千トン	13.9	16.2	14.9	-8.2	7.1
糸 類	〃	48.1	55.7	59.5	7.0	23.8
織物類	百万㎡	157.0	163.8	166.6	1.7	6.1
二次製品他	千トン	228.3	238.0	221.7	-6.8	-2.9
(うち衣 類)	〃	(110.3)	(106.9)	(96.3)	-10.0	-12.7

(出所) 経済産業省、財務省

(注) 1. 在庫は生産者在庫で各期末 2. 化繊輸出入の計には化繊くずを含む

6) 主要合繊品種の動向は次の通り。

<ポリエステルF>

2015年第2四半期のポリエステルフィラメントの生産は3万2,101トン・前年同期比7.5%の減、6月末在庫は1万2,219トン・前年同月比3.5%の増。

衣料用：ブラックフォーマルは百貨店・GMS向けは横這いだが、ロードサイドショップ向けが堅調。中東向け民族衣装「アバヤ」は円安定着で順調に推移。ヨガ向けのニットは国内・輸出ともに好調が続いた。学校体育用は在庫調整が進み上向きに転じた。

非衣料：タイヤコード用は織物輸入の高水準が続き、強力糸の輸入も増加したため、国内合繊メーカーの存在が一層薄くなった。カーシート用は自動車生産台数の減少が続く中、合成皮革の浸食もありファブリックは苦戦。ゴム資材用は国内向けが低調だったが、円安を背景に北米などへの間接輸出（製品にして輸出）が堅調に推移した。カーテン用は進学・転勤シーズン向けが不発に終わり、コントラクト需要も低調。土木・建築用は公共投資一巡、防音対策の工法変更などで低調。除染処理の

フレコン用は耐用年数の経過により荷動きが出てきた。

フィラメント輸出は 3,785 トン・前年同期比 13.0%減、フィラメント輸入は 3万 1,552 トン・0.2%減。

<ポリエステルS>

2015年第2四半期のポリエステルステープルの生産は 3万 5,043 トン・前年同期比 8.1%の減、6月末在庫は 2万 1,027 トン・前年同月比 6.6%の増。

紡績用：ユニフォームワーキング向けは備蓄の一巡から荷もたれ感が台頭して荷動きが鈍った。中東民族用（トープ）は円安定着を背景に堅調。

製綿用：例年この時期は出荷量が低位で推移。中国からの再生レギュラーわたの輸入が高水準で推移する中、合繊メーカーは「抗菌・防ダニ・防臭」などの機能を一段と強化した商品展開が益々重要になった。

不織布用：高価格帯の中国向け紙おむつ・生理用品の製品輸出が加速し、ステープルの出荷は堅調に推移した。ウェットティッシュなどのワイパー、フェイスマスク用の需要が拡大し、同用途向けの原反輸入も増加した。車両用は自動車生産の前年比減が続き苦戦した。湿式不織布は中国で浄水器の需要が急速に拡大する中、その部材に使用されるRO膜用が好調だった。

ステープル輸出は 5,751 トン・前年同期比 16.2%減、ステープル輸入は 8,195 トン・1.9%増。

<ナイロンF>

2015年第2四半期のナイロンフィラメントの生産は 2万 1,915 トン・前年同期比 10.7%の減、6月末在庫は 1万 1,240 トン・前年同月比 29.3%の増。

衣料用：パンストはプレーン物が堅調でインバウンドの爆買いの対象になり、タイツは「黒」中心の動きであった。高密度織物の輸出は米国向けが好調だったが欧州向けが盛り上らず、韓国向けも消費マインドの冷え込みで低調。国内向けアウトドアは昨年の「御嶽山の噴火」で登山者用が落ち込んだあと徐々に回復していたが、箱根山の火山性地震の影響が懸念された。

非衣料用：タイヤコード用は織物輸入が一服したが強力糸の輸入は増加が続く、円安でタイヤメーカーの中には海外調達を見直す動きが出てきた。エアバッグ用原糸はタイト感が強いものの、深刻化するタカタのリコール問題は日本の自動車メーカーにとって頭が痛い。タイルカーペットは駆け込み需要の反動減で苦戦が続いたが、例年並みの水準へ回復、一方車両用マットは自動車生産の低調で苦戦した。

フィラメント輸出は 9,151 トン・前年同期比 4.7%減、フィラメント輸入は 8,262 トン・4.3%増。

<アクリルS>

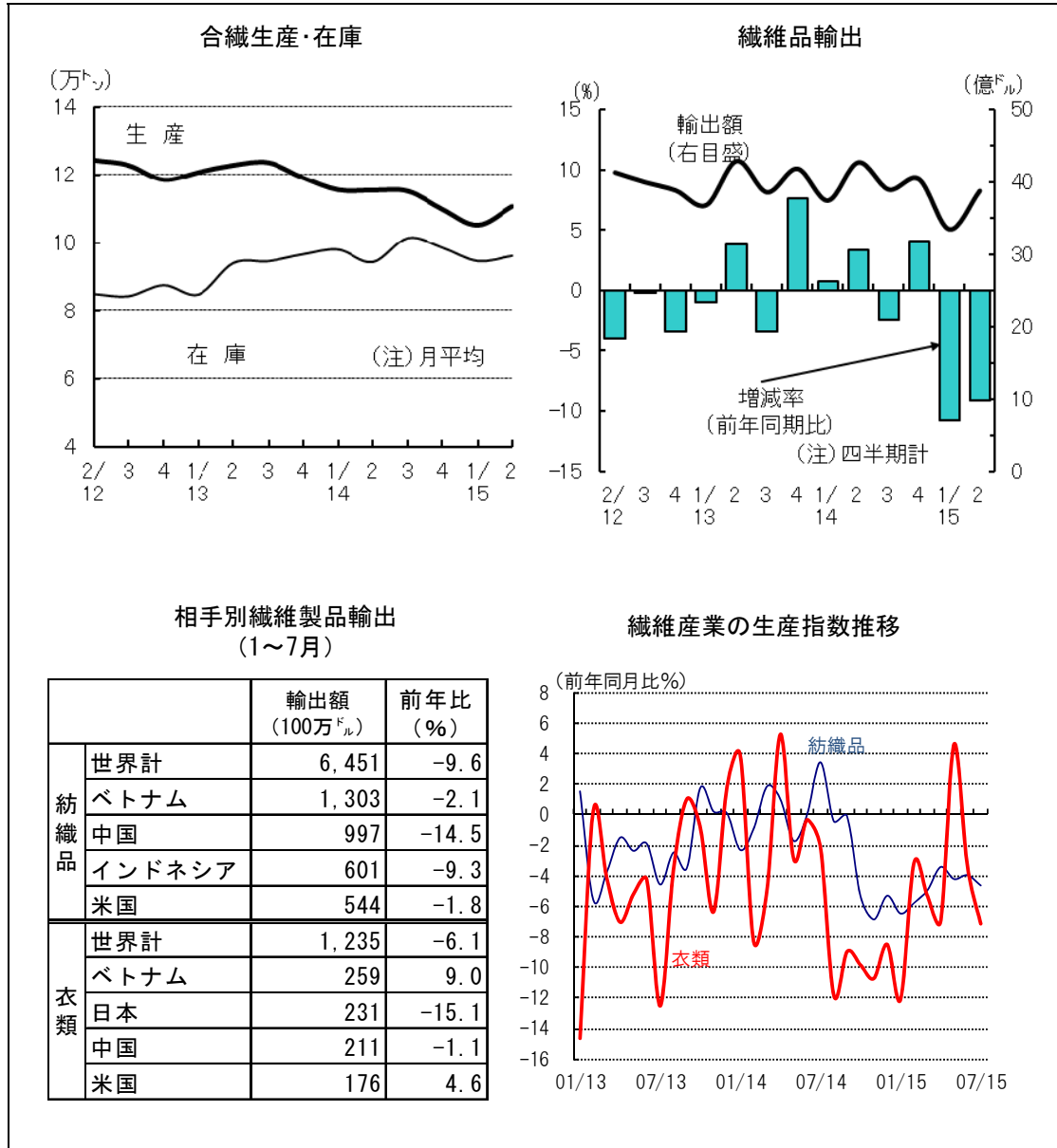
2015年第2四半期のアクリルステーブルの生産は3万9,793トンを前年同期比6.1%の増、6月末の在庫は1万744トンを前年同月比7.9%の増。

衣料用：保温肌着は厚地がトレンドになり、わた量が増加したことで2015年シーズン向けステーブルの出荷は順調だったが、大手SPAの独り勝ちの様相が強く、GMSのPB商品向けは不振。靴下は素材にこだわる大手SPA向けに安定した出荷が続いた。

建寝装用：毛布は円安で製品輸入の価格が上昇する中、純国産アクリル使いの復活に期待しているが、激減した産地のスペースが課題。

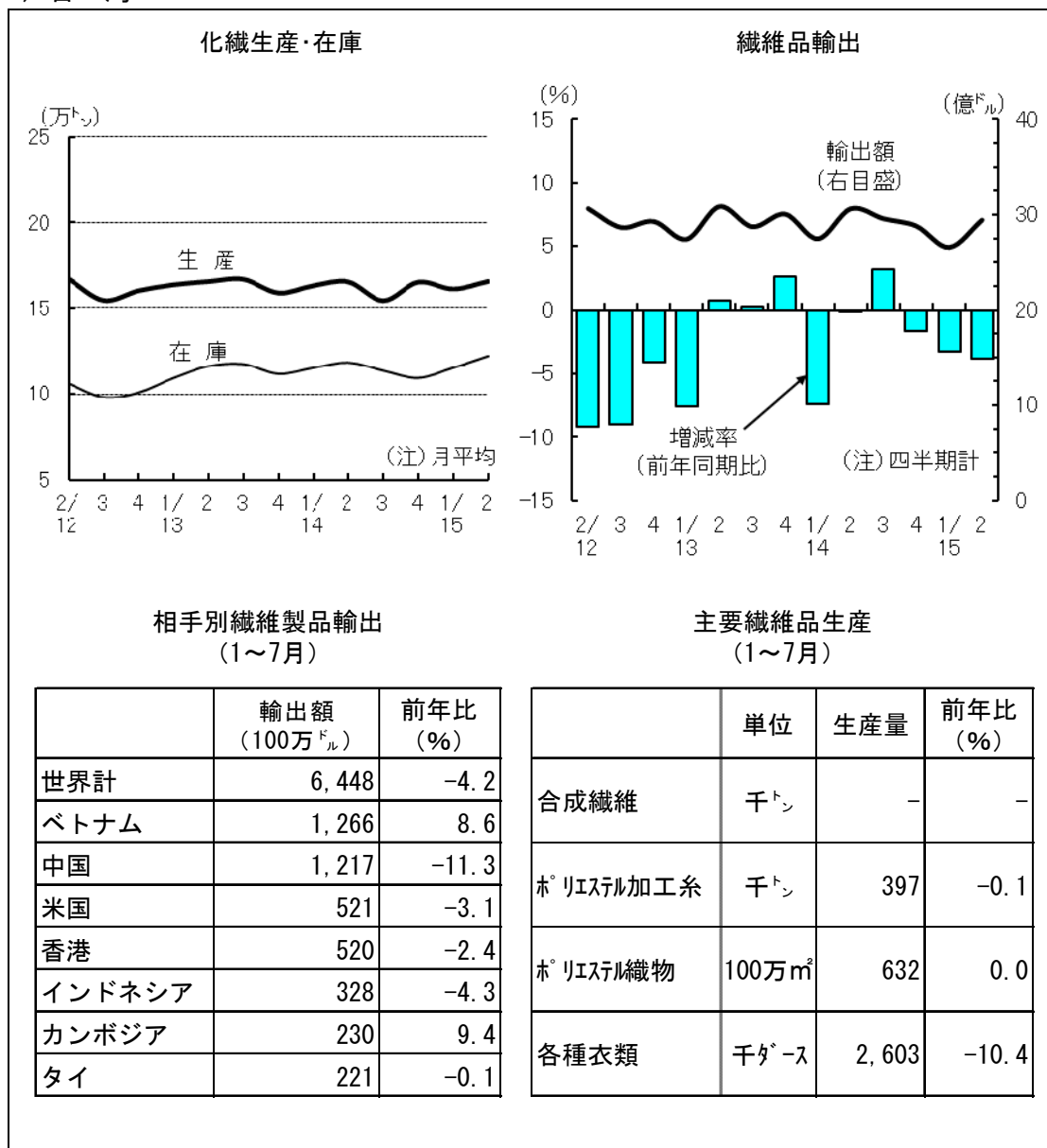
ステーブル輸出：最大仕向地の中国は2万2,159トン・前年比19.5%増となり、保温肌着用や再輸出用のセーター用が健闘したが、再輸出用フェイクファーは景気停滞が続く欧州・ロシア向けが低調だった。インドネシアは2,834トン・33.0%増、紡績糸の加工基地と期待しているが、月間1千トンを割れることが多い。

7) 韓国



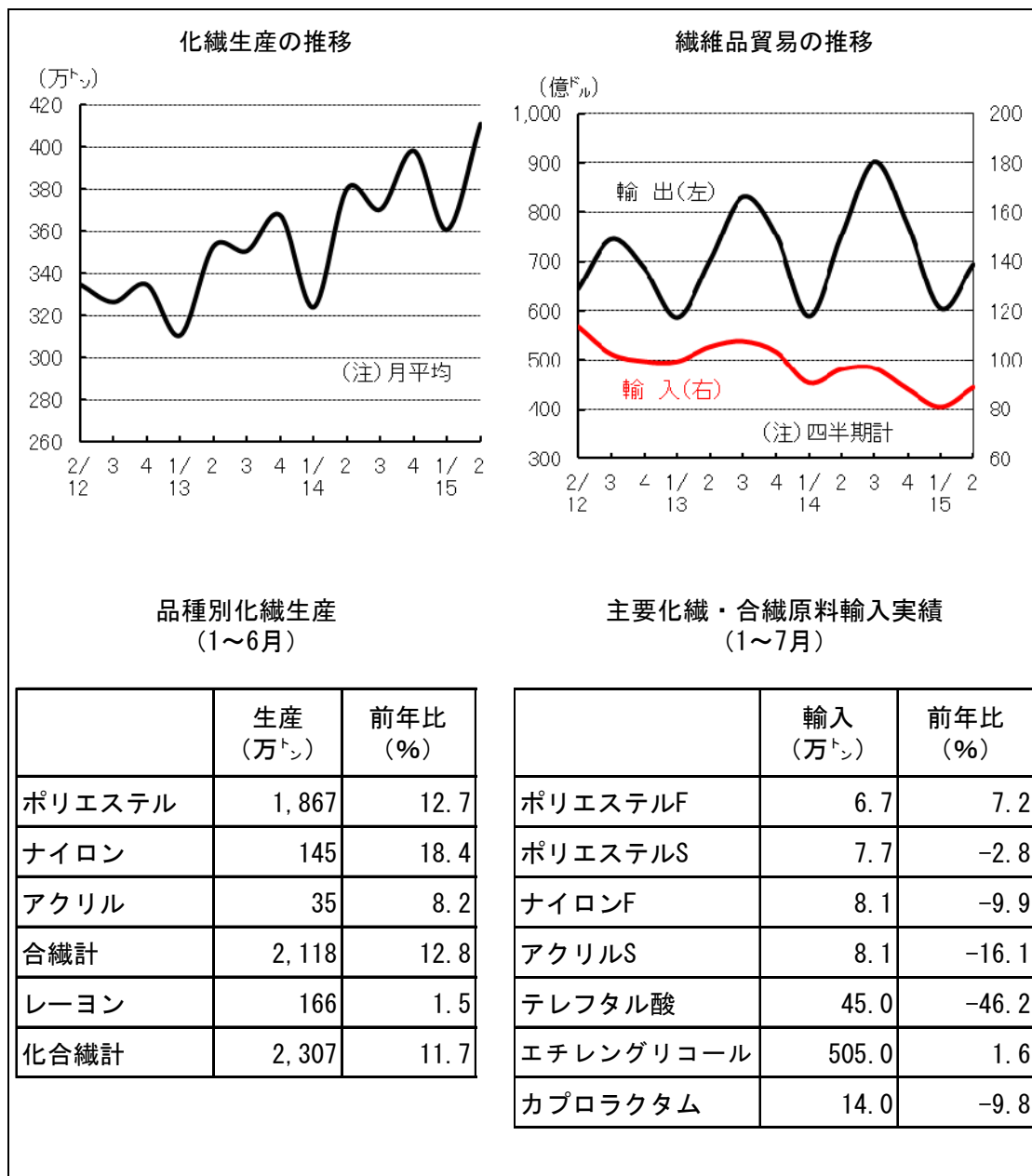
- ◆ 化繊生産、繊維品輸出とも続落、繊維業況は全般的に低調であった。
- ◆ 第2四半期の合繊生産は前年同期比4.1%減の33.2万トと6期連続で前年実績割れとなった。
- ◆ 第2四半期の繊維品輸出は9.1%減の38.8億ドルとなった。1~7月の繊維製品輸出を相手別にみると、紡織品は主力市場が軒並み前年実績割れとなった。衣類は、日本、中国は減少したが、ベトナム向けは9.0%増となり紡織品に続き、最大の輸出先となった。第2四半期の繊維品輸入は0.4%減の31.5億ドルとなった。
- ◆ 直近(2015年7月)の繊維品の生産指数をみると、紡織産業は4.6%減、衣類産業は7.1%減、ともに2014年年央以降、前年実績を下回っている。

8) 台湾



- ◆化繊生産は微増であったが、繊維品輸出は減少が続いている。
- ◆第2四半期の化繊生産は前年同期比0.1%増の49.7万トンとなった。主要合繊4品種は、ポリエステルFを除き、前年実績割れとなった。
- ◆第2四半期の繊維品輸出は前年同期比3.9%減の29.4億ドルとなった。1~7月の繊維品輸出を上位相手別にみると、中国が2桁減となったのに対して、ベトナム向けが続伸している。繊維品輸入は、同3.7%増の8.0億ドルとなった。
- ◆1~7月の主要繊維品の生産は、ポリエステル加工糸は0.1%減、ポリエステル織物は横ばい、衣類は10.4%減となった。

9) 中国



- ◆ 繊維生産は引き続き拡大傾向にあるがその伸びは鈍化、繊維品輸出は減少に転じた。
- ◆ 第2四半期の化繊生産は前年同期比8.1%増の1,233万トとなった。1-6月の化繊生産を品種別にみると、主力のポリエステルは同12.7%増の1,867万トとなった。なお、同期間の紡績糸生産、織物生産は2.8%増、3.6%増と大幅に鈍化している。
- ◆ 第2四半期の繊維品輸出は前年同期比7.8%減の694億ドルとなった。一方、輸入は7.6%減の89億ドルとなった。
- ◆ 1~7月の合繊原料輸入は、テレフタル酸、カプロラクタムが国内生産の増加もあってそれぞれ前年同期比46.2%減、9.8%減の大幅減となった。エチレングリコールは1.6%増となった。

相手別繊維製品輸出 (1~7月)			繊維業界の主要指標 (1~7月)			
	輸出額 (億ドル)	前年比 (%)		単位	指標	前年比 (%)
世界計	1,557	-4.4	企業数	万社	3.8	-
アジア計	671	-6.0	赤字企業数	万社	0.6	6.3
日本	114	-12.8	主要業務収入	億元	37,711	5.5
香港	76	-19.7	うち化繊産業	億元	4,086	2.7
アセアン	195	-0.6	利潤総額	億元	1,866	9.4
ベトナム	77	-5.1	うち化繊産業	億元	161	42.3
EU	299	-10.8	繊維産業実際投資	億元	6,167	19.7
米国	265	9.5	うち化繊産業	億元	620	1.5

社会小売財消費総額 (1~8月)				繊維関連物消費者物価指数 (1~8月)	
	単位	数値	前年比 (%)		前年同期比 (%)
商品売上総額	億元	190,809	10.5	消費者価格指数・全製品	1.4
うち繊維品等	億元	8,255	10.5	消費者価格指数・衣類等	2.9

- ◆1~7月の相手別の繊維製品輸出は、全体で4.4%減、アジア向けは6.0%減となり、日本向け、香港向けは2桁減となった。最大の仕向地であるEU向けは10.8%減となった。一方、米国向けは9.5%増と堅調が続いている。アセアン向けは0.6%減と減少に転じた。
- ◆1~7月の繊維産業の主要指標は、主要業務収入は5.5%増であったが、利潤総額は9.4%増と引続き好調であった。繊維産業の投資は19.7%増と2桁の伸びが続いているが、ポリエステル中心に供給過剰がみられる化繊産業は1.5%の伸びにとどまった。
- ◆衣料用内需は引続き堅調に推移した。1~7月の繊維品に関する社会小売消費総額は前年同期比10.5%増となった。衣類等の消費者物価指数は前年同期比2.9%上昇した。

10) 米 国

・合織生産

2015年1～7月の合織生産は前年同期比1.5%減の166.2万トンであった。用途別では産資用が不振でナイロンF、ポリエステルFいずれも2割前後の大幅減少となった。カーペット用はポリエステルFの好調が継続した。

主要品種別にみると、ナイロンFは産資用が25.1%減、カーペット用が5.2%減、紡織用が7.7%減といずれも減少し、全体では7.9%減の30.7万トンとなった。

ポリエステルFは、産資用が18.1%減と大幅に減少、紡織用は横ばい(0.1%増)であったが、素材代替が進行するカーペット用が9.7%増の23.4万トンと好調であったことから、全体で2.5%増の39.3万トンと増加した。ポリエステルSは横ばいの36.7万トン。カーペット向け、不織布向けのいずれも減少した。

オレフィンFは2.0%増の51.1万トン。品種別出荷の内訳は、モノフィラメント・スパンボンド・フィルムファイバーが5.8%増であったが、マルチフィラメントヤーンが11.4%減となった。オレフィンSは17.5%減の8.5万トンと大幅に減少した。

主要合織の生産高(1～7月)

	(1000トン)		
	2014	2015	前年比(%)
ナイロンF	333.3	306.8	-7.9
産資用	44.1	33.0	-25.1
カーペット用	271.6	257.5	-5.2
紡織用	17.6	16.3	-7.7
ポリエステルF	382.9	392.5	2.5
産資用	61.5	50.3	-18.1
カーペット用	213.0	233.7	9.7
紡織用	108.4	108.5	0.1
ポリエステルS	366.4	366.8	0.1
オレフィンF	500.6	510.7	2.0
オレフィンS	103.4	85.3	-17.5
合織計	1,686.6	1,662.1	-1.5

(出所) Fiber Review

・輸 入

2015年の1～7月の繊維製品輸入は前年同期比4.0%増の1,104億ドルとなった。仕出地別にみると、最大仕出国の中国が2.6%増の428億ドルと増加した他、ベトナムが14.2%増の107.5億ドル、インドが9.5%増の71.7億ドルと増加した。

上記の繊維品全体に対し、衣料輸入は3.7%増の837.4億ドルであった。仕出地別ではシェア36%を占める中国が1.4%増の301.6億ドル、ベトナムが14.7%増の100.4億ドル、バングラデシュが3.9%増の50.9億ドルと増加した。

繊維製品輸入実績（１～７月）

(100万ドル)

繊維製品計				うち衣類			
仕出地	2014年	2015年	前年比(%)	仕出地	2014年	2015年	前年比(%)
中国	41,731	42,800	2.6	中国	29,737	30,159	1.4
ベトナム	9,416	10,752	14.2	ベトナム	8,752	10,042	14.7
インド	6,547	7,169	9.5	バングラデシュ	4,895	5,085	3.9
バングラデシュ	5,065	5,274	4.1	インドネシア	4,833	4,835	0.0
インドネシア	5,071	5,082	0.2	メキシコ	3,688	3,694	0.2
世界	106,135	110,427	4.0	世界	80,779	83,744	3.7

(出所) 米商務省

・企業動向

大手ポリエステルメーカーの DAK America は、サウスカロライナ州 Cooper River の Es 工場を拡大する。増設規模は 2.5 万トで、第 1 期工事を 2015 年春に実施、第 2 期の着工時期は第 1 期稼働後に決定する予定。増設完了後の DAK の Es 生産能力は北米全体で 22.5 万トとなる。増設分は主に国内向けに供給される。

産資用合繊大手の Performance Fibers は、同社名称を Dura Fiber Technologies に変更した。また 2014 年 12 月に合意した同社傘下の Performance Fibers Asia の Indorama Ventures への売却が完了した。

1 1) 欧 州

・合繊生産

合繊生産は紡織用ポリエステル F が 14.8%減の 10.3 万トと大幅に減少した。産資用はナイロン F が 4.3%減の 5.6 万トと減少したのに対し、ポリエステル F が 2.6%増の 7.3 万トと増加した。ポリエステル S は 0.6%増の 33.7 万トと微増。

主要合繊の生産高（１～６月）

	(1000ト、%)				
	2012	2013	2014	2015	前年比
産資用ナイロン F	57.1	53.4	58.9	56.4	-4.3
紡織用ポリエステル F	120.4	118.2	121.1	103.2	-14.8
産資用ポリエステル F *	72.9	67.5	70.9	72.8	2.6
ポリエステル S *	340.5	345.3	335.2	337.0	0.6
アクリル S	299.9	278.3

(出所) CIRFS

(注) その他の品種は未発表。*ベラルーンを含む。

・企業動向

伊ナイロンメーカー Nylstar を所有するスペインの投資会社 Praedium が、伊アクリルメーカー大手の Montefibre のスペイン 100%子会社 Montefibre Hispania の買収を完了。Praedium は 200 万ユーロを増資して Montefibre Hispania の株式 90%を取得、今後はアクリル工場の再稼働と、炭素繊維の生産着手を計画しているもよう。

合織4品種需要実績(2015年4～6月)

※国内需要の対前年同期比欄について、2015年1～3月から衣料・非衣料比率の見直しにより空欄とします。

I. ポリエステルフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2015年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	22,865	96.4	
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	38,600	96.4	
	計	61,465 (31,552)	96.4 (96.9)	96.4 (99.8)
輸出 (原糸、加工糸)		1,650	95.4	93.9
需要計		63,115	96.4	96.3
在庫		12,219	107.7	103.5

(注)国内需要の()内数値は輸入量

II. ポリエステルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2015年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	紡績用 (加工品輸出用含む)	4,381	88.8	
	非紡績用 (加工品輸出用含む)	31,088	89.1	
	計 (輸入)	35,470 (8,195)	92.5 (92.5)	97.0 (101.9)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		3,029	68.1	95.6
需要計		38,499	90.0	96.9
在庫		21,027	116.9	106.6

(注)国内需要の()内数値は輸入量

III. ナイロンフィラメント需要実績

(単位:トン、%)

		2015年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	5,248	86.5	
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	17,673	101.3	
	計	22,921 (8,261)	97.4 (103.7)	90.5 (104.3)
輸出 (原糸、加工糸)		7,180	105.7	95.9
需要計		30,101	99.3	91.7
在庫		11,240	102.6	129.3

(注)国内需要の()内数値は輸入量

IV. アクリルステーブル需要実績

(単位:トン、%)

		2015年4～6月 実績	対前期比	対前年同期比
国内 需要	衣料用 (加工品輸出用含む。)	6,368	85.2	
	非衣料用 (加工品輸出用含む。)	1,601	84.1	
	計	7,969 (183)	85.0 (113.7)	100.6 (93.4)
輸出 (ステーブル・トウ・トップ)		32,072	136.5	112.2
需要計		40,041	121.8	109.7
在庫		10,744	107.4	107.9

(注)国内需要の()内数値は輸入量